

Contents

- 初めてでも分かりやすい！ 動画で学ぶ本！————— 2
- 2級建築施工管理技術検定試験 第二次検定 受検ガイダンス————— **無料** **YouTube** 動画講習 6
- 最新問題の一括要約リスト————— **無料** **YouTube** 動画講習 13

本編

第Ⅰ編 施工経験記述

- I-1 施工経験記述 技術検定試験 重要項目集————— 26
- I-2 施工経験記述の考え方・書き方講習————— **無料** **YouTube** 動画講習 36
- I-3 最新問題解説————— 41

第Ⅱ編 建築分野別記述

第1章 建築施工用語

- 1-1 建築施工用語 技術検定試験 重要項目集————— 133
- 1-2 最新問題解説————— 136

第2章 施工管理

- 2-1 施工管理 技術検定試験 重要項目集————— **無料** **YouTube** 動画講習 228
- 2-2 最新問題解説————— 242

第3章 建築法規

- 3-1 建築法規 技術検定試験 重要項目集————— 295
- 3-2 最新問題解説————— 301

第4章 建築施工

- 4-1A 建築施工 技術検定試験 重要項目集(受検種別:建築)————— 347
- 4-2A 最新問題解説(受検種別:建築)————— 366
- 4-1B 建築施工 技術検定試験 重要項目集(受検種別:躯体)————— 433
- 4-2B 最新問題解説(受検種別:躯体)————— 441
- 4-1C 建築施工 技術検定試験 重要項目集(受検種別:仕上げ)————— 493
- 4-2C 最新問題解説(受検種別:仕上げ)————— 504

攻略編

- 令和5年度 虎の巻(精選模試)施工経験記述編————— 555
- 令和5年度 虎の巻(精選模試)第一巻————— **無料** **YouTube** 動画講習 565
- 令和5年度 虎の巻(精選模試)第二巻————— **無料** **YouTube** 動画講習 583
- 施工経験記述添削講座(読者限定の有料通信講座)————— 601

初めてでも
分かりやすい!
動画で学ぶ本!



本書
スーパーテキストシリーズ
分野別 問題解説集



4 **無料 YouTube 動画講習**

在来軸組構法の木造建築物の一階床構造

軽量鉄骨壁下地の構造

工程	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
基礎工事	山形	山形	山形	山形	山形	山形	山形	山形	山形	山形	山形	山形	山形
杭工事	アースドリル杭	杭	杭	杭	杭	杭	杭	杭	杭	杭	杭	杭	杭
土工事	地盤改良	地盤改良	地盤改良	地盤改良	地盤改良	地盤改良	地盤改良	地盤改良	地盤改良	地盤改良	地盤改良	地盤改良	地盤改良
鉄筋・型枠・コンクリート工事	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎
外装工事	外装	外装	外装	外装	外装	外装	外装	外装	外装	外装	外装	外装	外装
防水工事	防水	防水	防水	防水	防水	防水	防水	防水	防水	防水	防水	防水	防水
金業製鉄員工事	金業製鉄員	金業製鉄員	金業製鉄員	金業製鉄員	金業製鉄員	金業製鉄員	金業製鉄員	金業製鉄員	金業製鉄員	金業製鉄員	金業製鉄員	金業製鉄員	金業製鉄員
金業工事	金業	金業	金業	金業	金業	金業	金業	金業	金業	金業	金業	金業	金業

これなら解る!
Good!

<https://get-ken.jp/>
 GET 研究所 検索 → 無料動画公開中 → 動画を選択

5日間の集中学習で完全攻略!

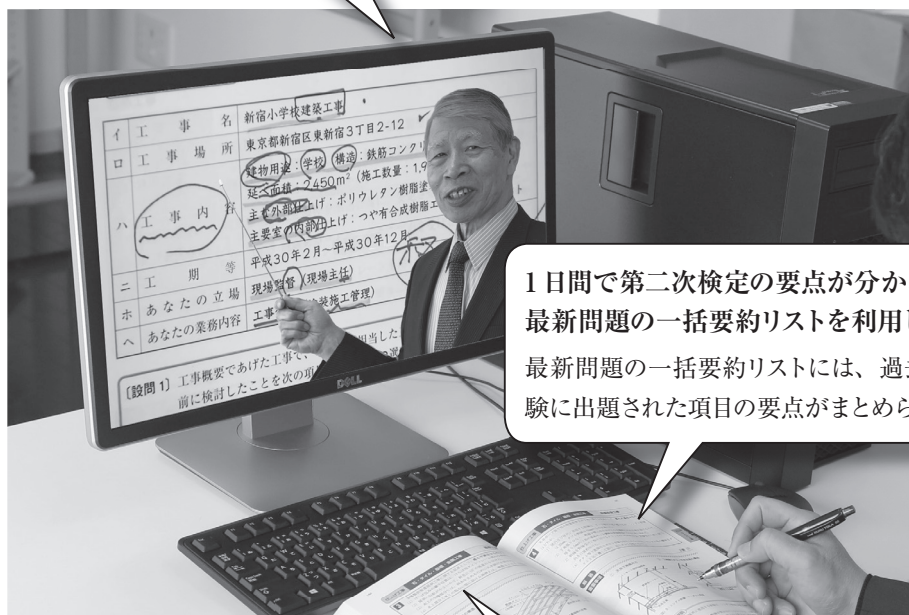
本書は最短の学習時間で国家資格を取得できる自己完結型の学習システムです!

本書「スーパーテキストシリーズ 分野別 問題解説集」は、本年度の第二次検定を攻略するために必要な学習項目をまとめた虎の巻(精選模試)とYouTube 動画講習を融合させた、短期間で合格力を獲得できる自己完結型の学習システムです。

2日間で **問題1** の施工経験記述が攻略できる!

YouTube 動画講習を活用しよう!

YouTube 動画講習を視聴し、施工経験記述の練習を行うことにより、工事概要・施工計画・工程管理・品質管理の書き方をすべて習得できます。



1日間で第二次検定の要点が分かる!

最新問題の一括要約リストを利用しよう!

最新問題の一括要約リストには、過去10年間の試験に出題された項目の要点がまとめられています。

2日間で **問題2 ~ 問題5** が攻略できる!

虎の巻(精選模試)に取り組もう!

本書の虎の巻(精選模試)には、本年度の第二次検定に解答するために必要な学習項目が、すべて包括整理されています。

無料 YouTube 動画講習 受講手順

スマホから



<https://get-ken.jp/>

GET研究所 検索



← スマホ版無料動画コーナー QRコード

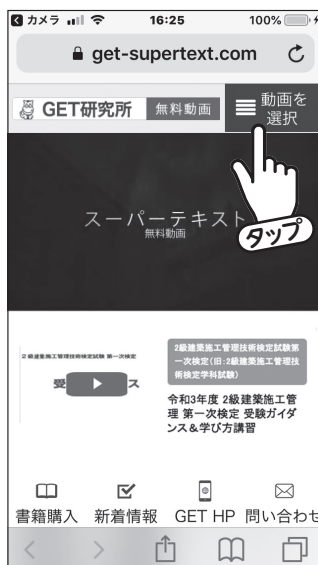
URL <https://get-supertext.com/>

(注意) スマートフォンでの長時間聴講は、Wi-Fi 環境が整ったエリアで行いましょう。

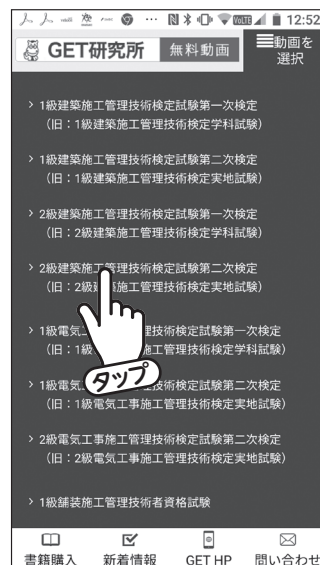
① スマートフォンのカメラでこの QR コードを撮影してください。



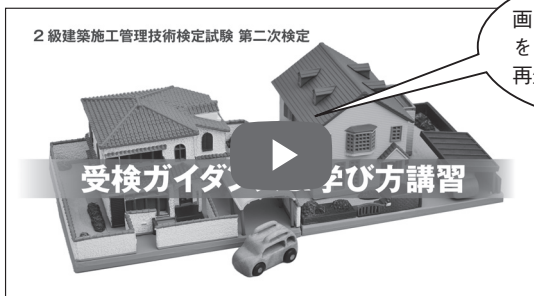
② 画面右上の「動画を選択」をタップしてください。



③ 受講したい受検種別をタップしてください。



④ 受検種別に関する動画が抽出されます。



画面中央の再生ボタンをクリックすると動画が再生されます。

※ 動画の視聴について疑問がある場合は、弊社ホームページの「よくある質問」を参照し、解決できない場合は「お問い合わせ」をご利用ください。

GET WEB 講習

パソコンから  <https://get-ken.jp/>
GET研究所 検索

①



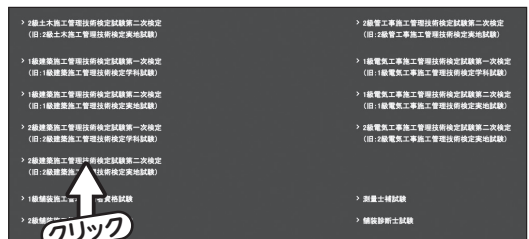
②



③ 画面右上の「動画を選択」をクリックしてください。



④ 受講したい受検種別をクリックしてください。



⑤ 受検種別に関する動画が抽出されます。



画面中央の再生ボタン
をクリックすると動画が
再生されます。

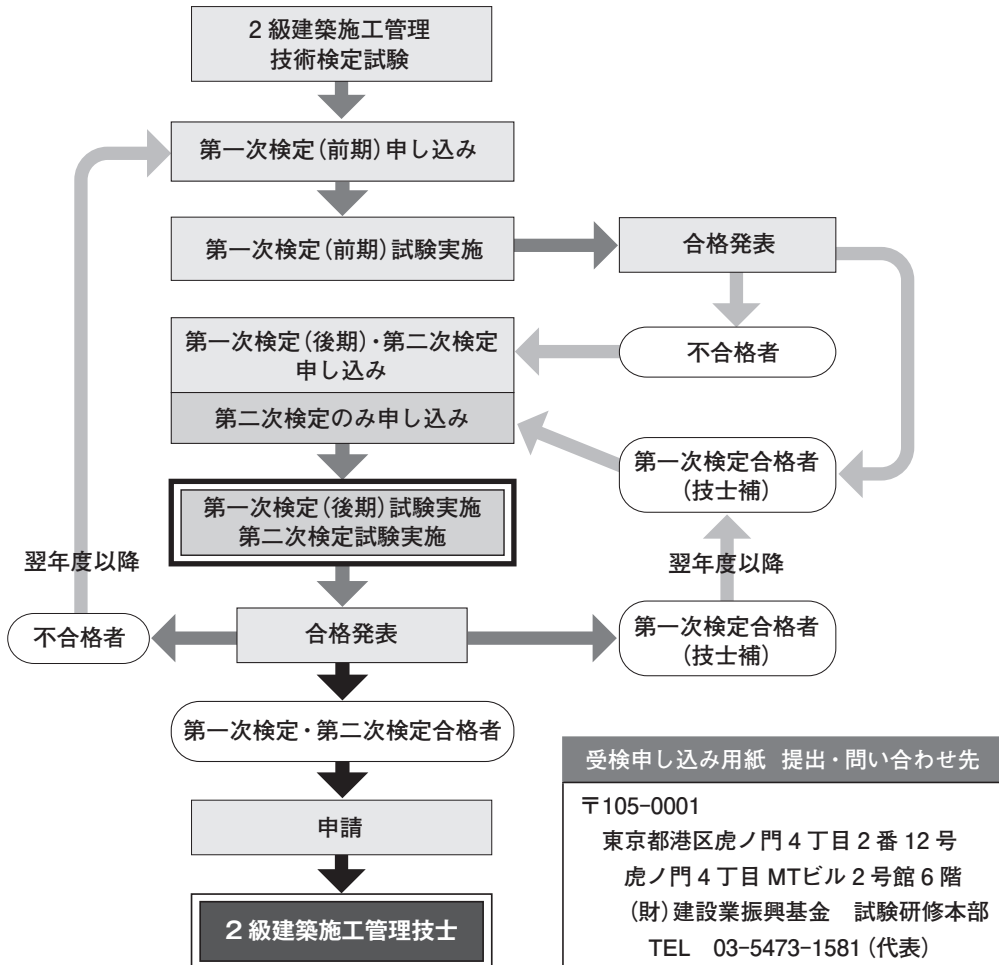
※ 動画下の YouTube ボタンを
クリックすると、大きな画面
で視聴できます。

2級建築施工管理技術検定試験 受検ガイダンス

1 2級建築施工管理技士の資格取得までの流れ

重要

下記のフローチャートは、令和4年度の受検の手引に基づいて作成したものです。
令和5年度の試験日程については、必ずご自身でご確認ください。



受検申し込み用紙 提出・問い合わせ先

〒105-0001

東京都港区虎ノ門4丁目2番12号

虎ノ門4丁目MTビル2号館6階

(財)建設業振興基金 試験研修本部

TEL 03-5473-1581 (代表)

※令和5年5月8日時点で発表されている令和5年度の試験実施日程は、下記の通りです。
最新の試験実施日程については、必ずご自身でご確認ください。

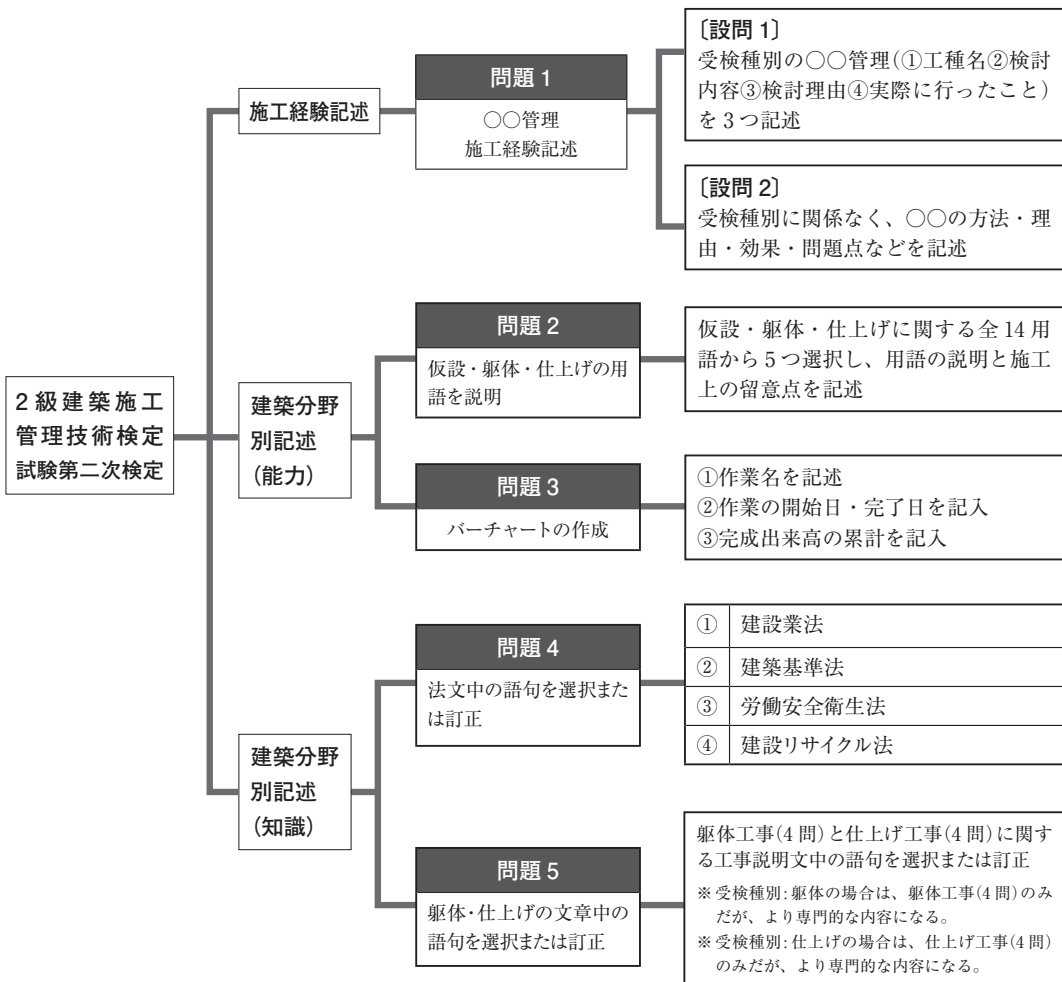
7月14日(金曜日)	受検申込みの受付けが開始されます。
7月28日(金曜日)	受検申込みの受付けの締切り日です。
11月12日(日曜日)	第一次検定・第二次検定が実施されます。
翌年2月2日(金曜日)	第二次検定の合格発表が行われます。

2 2級建築施工管理技術検定試験第二次検定の出題形式

2級建築施工管理技術検定試験第二次検定は、施工経験記述(能力／解答形式は記述式)・建築分野別記述(能力／解答形式は記述式)・建築分野別記述(知識／解答方式は四肢一択のマークシート式)で構成されている。令和3年度以降の第二次検定および令和2年度以前の実地試験(第二次検定の旧称)では、すべての問題が必須問題であった。

問題1〔設問1〕「①工種名」に関しては、受検種別が「建築」の者は建築一式工事における「躯体」と「仕上げ」のどちらを記述してもよいが、受検種別が「躯体」の者は「躯体」、受検種別が「仕上げ」の者は「仕上げ」に関する経験を記述する必要がある。

問題4と**問題5**に関しては、令和2年度以前の実地試験(第二次検定の旧称)では「問題文中の誤っている語句を訂正する記述式の問題」が出題されていたが、令和3年度以降の第二次検定では「問題文中の空欄に当てはまる語句を選択する四肢一択式の問題」に変更されている。令和5年度の第二次検定においても、**問題4**と**問題5**は四肢一択式で出題されると思われる。また、**問題5**に関しては、平成30年度以降の試験では、受検種別(建築・躯体・仕上げ)ごとに異なる問題が出題されている。



3 過去問題「施工経験記述」の出題形式・分析・概要

1 過去10年間の施工経験記述の出題形式

施工経験記述は、施工計画・工種別施工計画・工程管理・品質管理・安全管理・環境保全のいずれかから出題される。

年度	設問	施工計画・工程管理・品質管理に関する 検討事項・行ったこと・理由	設問	品質・工程・安全・環境に関する 検討事項・理由・対応策
R4	①	品質の不具合の理由・行ったこと・留意点	②	品質確保のための確認事項・理由
R3	①	施工計画に関する検討事項・理由・実施内容	②	品質・工程に係る計画の理由・対策・留意点
R2	①	工程管理に関する着目事項・理由・対策	②	工程短縮の方法・手段と工事への良い影響
R元	①	施工計画に関する検討事項・行ったこと・理由	②	産業廃棄物を減らす方法・手段とその留意点
H30	①	品質確保を妨げる不具合の要因と防止対策	②	品質管理の方法・手段とその理由
H29	①	工程管理に関する留意内容と着目理由	②	工程短縮の方法・手段と工事への良い影響
H28	①	施工計画に関する検討事項・行ったこと・理由	②	品質・工程・安全に関する検討事項・理由・対応策
H27	①	施工品質低下防止の留意点・理由・対策	②	品質管理の体制・手順・ツール
H26	①	工事の着手前の工期遅延対策	②	工程合理化方法と派生効果
H25	①	施工計画の工程を示しその留意点と理由	②	作業手順を作業員に周知し安全を確認する方法

2 受検種別と「工種」選択の制限

問題 1 設問1：施工経験記述の「工種」は、受検種別に応じたものを選択して記述することが重要である。

受検種別	工種	
	躯体工事	仕上げ工事
建築	○	○
躯体	○	×
仕上げ	×	○

○ 選択できる
× 選択できない

問題 1 設問2：通常、受検種別に関係なく、躯体工事・仕上げ工事を選択して記述することができる。したがって、受検種別：躯体の者は「仕上げ工事」の記述ができる。また、受検種別：仕上げの者は「躯体工事」の記述ができる。

4 過去問題「建築分野別記述」の出題形式・分析・概要

1 過去 10 年間の建築分野別記述の出題形式

問題番号	問題 2	問題 3	問題 4	問題 5
年度	仮設・躯体・仕上げの用語の説明と施工上の留意点の記述	バーチャート(横線式)工程表又はネットワーク計算	建築関連法規の記述文中の語句の選択または訂正	躯体工事・仕上げ工事の説明文中の語句の選択または訂正
R 4	説明と留意点を記述	バーチャート工程表	空欄の語句を選択	空欄の語句を選択
R 3	〃	〃	〃	〃
R 2	〃	〃	誤りの語句を訂正	誤りの語句を訂正
R 元	〃	〃	〃	〃
H30	〃	〃	〃	〃
H29	〃	〃	〃	〃
H28	〃	ネットワーク計算	〃	〃
H27	〃	〃	〃	〃
H26	〃	〃	〃	〃
H25	〃	〃	〃	〃

2 建築分野別記述の出題の傾向

建築分野別記述の出題は、**問題 3**を除き、過去 10 年間、一貫して似たような出題形式が踏襲されているため、過去問題に十分習熟する必要がある。

問題 2は、建築工事に関する用語について、その用語の説明と施工上留意すべきことを記述するものであるため、記述のキーワードを発見するための訓練が必要となる。

問題 3は、平成 29 年度からはネットワーク計算ではなくバーチャート工程表が出題されており、出題形式が大きく変化したといえる。令和 5 年度の試験においても、バーチャート工程表からの出題になると思われるので、平成 29 年度以降の問題を学習し、バーチャートの作り方・読み取り方を理解する必要がある。

問題 4と**問題 5**は、令和 3 年度からは解答形式が記述式から四肢一択のマークシートに変更されているが、その考え方・解き方が大きく変わるものではない。第一次検定と同様の考え方で、その文章中の適当な用語・不適当な用語を見つけ出すことができれば、解答が可能である。過去問題から繰り返して出題されている問題が多いので、出題頻度が高い過去問題に集中して学習する必要がある。

5 初学者向けの標準的な学習手順

※この勉強法は、初めて第二次検定を受ける方に向けたものです。これまでに2級建築施工管理技術検定試験第二次検定や実地試験(第二次検定の旧称)を受けたことがあるなど、既に自らの勉強法が定まっている方は、その方法を踏襲してください。しかし、この勉強法は本当に効率的なので、勉強法が定まっていない方は、活用することをお勧めします。

本書では、第二次検定を5日間の集中学習で完全攻略することを目標にしています。各学習日の学習時間は、5時間を想定しているので、長期休暇を利用して一気に学習することを推奨しますが、毎週末に少しずつ学習することもできます。

この学習手順は、第二次検定を初めて受検する方が、最短の学習時間で合格できるように構築されています。より詳しい学習手順については、「受検ガイダンス&学び方講習」のYouTube動画講習を参照してください。

1日目 の学習手順(最新問題の重要ポイントを把握します)

- ① 完全合格のための学習法(YouTube 動画講習)を視聴してください。
- ② 本書の13ページに掲載されている「最新問題の一括要約リスト」を熟読してください。

2日目 の学習手順(建築施工用語・施工管理を分野別に集中学習します)

- ① 「虎の巻」解説講習(YouTube 動画講習)の**問題2**・**問題3**を視聴してください。
- ② 虎の巻(精選模試)第一巻及び第二巻の**問題2**・**問題3**を学習してください。
- ③ 本書の第Ⅱ編の第1章「建築施工用語」・第2章「施工管理」を学習してください。

3日目 の学習手順(建築法規・建築施工を分野別に集中学習します)

- ① 「虎の巻」解説講習(YouTube動画講習)の**問題4**・**問題5**を視聴してください。
- ② 虎の巻(精選模試)第一巻及び第二巻の**問題4**・**問題5**を学習してください。
- ③ 本書の第Ⅱ編の第3章「建築法規」・第4章「建築施工」を学習してください。

4日目 の学習手順(施工経験記述を書くための準備をします)

- ① 施工経験記述の考え方・書き方講習(YouTube動画講習)を視聴してください。
- ② 本書607ページの施工経験記述記入用紙をコピーし、工事概要を書き込んでください。
- ③ 施工計画・工程管理・品質管理の施工経験について、ストーリーを作成してください。

5日目 の学習手順(施工計画・工程管理・品質管理の施工経験記述を実際に書いてみます)

- ① 本書607ページ・609ページ・611ページの施工経験記述記入用紙をコピーしてください。
- ② 施工計画・品質管理・工程管理の3つのテーマについて、施工経験を書き込んでください。

※施工経験記述添削講座(有料)の受講をご希望の方は、本書の601ページをご覧ください。

6 学習手順の補足

- ①この学習手順では、5日間のうち、**問題1**の施工経験記述には2日間を費やしています。毎年度の試験の傾向から見ると、**問題1**で不合格と判定された場合、**問題2**以降は採点されないおそれがあるからです。**問題1**の施工経験記述は、それだけ重要なのです。
- ②2日目の学習手順では、**問題2**の「動画講習視聴→虎の巻学習→本編学習」を行ってから、**問題3**の「動画講習視聴→虎の巻学習→本編学習」を行うと、分野別に学習を進めることができるので、より効果的です。3日目の学習手順についても同様です。
- ③2日目と3日目の学習手順では、「虎の巻」解説講習(YouTube 動画講習)を見てから、虎の巻(精選模試)を学習することになっていますが、この方法では、虎の巻(精選模試)を自らの力だけで解いてみる前に、その答えが分かっけてしまいます。これを避けたいと思う方は、動画を見る前に、自らの力だけで虎の巻(精選模試)に挑戦してみるという学習方法も考えられます。こちらの方法は、何度か第二次検定や実地試験(第二次検定の旧称)を受けたことがあるなど、既に学習経験のある方にお勧めです。
- ④3日目の学習手順にある**問題5**については、**受検種別：建築**の受検者は**問題5-A**、**受検種別：躯体**の受検者は**問題5-B**、**受検種別：仕上げ**の受検者は**問題5-C**のみを学習してください。
※受検種別：建築の受検者は、学習時間を十分にとれる場合、平成30年度以降の**問題5-B**・**問題5-C**の最新問題解説を一読しておく、躯体工事・仕上げ工事に関するより深い知識を身につけることができます。
- ⑤**問題3**のバーチャート作成は、計算問題になっていることが多く、解答に時間がかかる可能性が高いため、実際の試験においては、他の問題をすべて完了させてから、最後に取り組むことが望ましいとされています。


7 最新問題の一括要約リスト(完全合格のための学習法)

本書の13ページ～24ページには、平成25年度以降に出題された**問題2**・**問題3**・**問題4**・**問題5**の要点が集約されています。これを数回通読すると、学習をより確かなものにすることができます。最新問題の一括要約リスト(完全合格のための学習法)は、YouTube 動画講習としても提供しているため、手元にスマートフォンなどがあれば、ちょっとした隙間時間(通勤電車の中や休憩時間など)にも、過去10年間の出題内容をまとめて効率よく学習を進めてゆくことができます。

8 「無料 YouTube 動画講習」の活用

本書の学習と併せて、無料 YouTube 動画講習 を視聴すると、理解力を高めることができます。是非ご活用ください。本書は、書籍と動画講習の2本柱で学習を行えるようになっています。

GET^{ゲット}研究所の動画サポートシステム

書籍	無料 YouTube 動画講習 
受検ガイダンス	受検ガイダンス&学び方講習 無料 YouTube 動画講習
最新問題の一括要約リスト	完全合格のための学習法 無料 YouTube 動画講習
施工経験記述	施工経験記述の考え方・書き方講習 無料 YouTube 動画講習
建築施工用語 施工管理 建築法規 建築施工	バーチャートの読み方講習 無料 YouTube 動画講習
虎の巻(精選模試)	「虎の巻」解説講習 無料 YouTube 動画講習

※この表は、「書籍」に記載されている各学習項目(左欄)に対応する「動画講習」のタイトル(右欄)を示すものです。

無料 YouTube 動画講習 は、GET 研究所ホームページから視聴できます。

<https://get-ken.jp/>



最新問題の一括要約リスト

2 級建築施工管理技術検定試験第二次検定 完全合格のための学習法

この学習法で一発合格を手にしよう!

「最新問題の一括要約リスト」は、令和4年度から平成25年度までの10回の試験に出題された **問題2** ～ **問題5** について、その問題を解くために最低限必要な事項だけを徹底的に集約したものです。2級建築施工管理技術検定試験第二次検定や実地試験(第二次検定の旧称)では、過去問題から繰り返して出題されている問題が多いので、このリストを覚えておくだけでも一定の学習効果が期待できます。また、このリストを本書の最新問題解説と照らし合わせながら学習を進めることで、短時間で効率的に実力を身につけることができるようになっています。

問題1 の施工経験記述については、受検者自身の工事経験を記載するものであるため、「最新問題の一括要約リスト」には記載がありません。しかし、施工経験記述については、施工計画・工程管理・品質管理の3つの出題分野について、あらかじめ自身の工事経験を書いてみることで、事前に準備できるため、合格点を獲得しやすくなっています。

このリストに付随する無料動画「完全合格のための学習法」では、このリストの活用法や着目ポイントについての解説を行っています。



← スマホ版無料動画コーナー QRコード

URL <https://get-supertext.com/>

(注意) スマートフォンでの長時間聴講は、Wi-Fi環境が整ったエリアで行いましょう。

「完全合格のための学習法」の動画講習を、GET 研究所ホームページから視聴できます。

<https://get-ken.jp/>

GET 研究所

検索

無料動画公開中

動画を選択

2級建築施工管理技術検定試験第二次検定 最新問題の一括要約リスト

※ここに書かれている内容は、解答の要点をできる限り短縮してまとめたものなので、一部の表現が必ずしも正確ではない可能性(前提条件や例外規定を省略しているなど)があります。詳細な解説については、必要に応じて本書の当該年度の最新問題解説を参照してください。

問題2 建築施工用語

建築工事に関する用語の説明と、施工上留意すべきことを記述する問題が出題される。

工程	用語	用語の説明	施工上留意すべきこと	出題年度	
仮設	測量	陸墨	仕上げ高さの基準を示す墨で描いた水平線。	上階の陸墨は、1階床面の高さを基準とする。	R元,H26
		ベンチマーク	建築物の位置・高さの基準となる点。	破損事故に備えるため、複数個設置する。	R4, R2, H29
山留め	親杭横矢板壁	H型鋼の間に木板を嵌め込んだ土留め壁である。	地山を削る深さは、「矢板厚+余掘り厚」とする。	R4	
	鋼矢板	山留め支保工の土圧壁や遮水壁となる鋼材。	接合部を密着させ、根入れ深さを大きくする。	R元,H28	
	釜場	掘削底面の湧水を集めるための集水桝。	基礎への影響がない位置に設置する。	R3, H29	
足場	手すり先行工法	足場作業の墜落防止のために有効な工法。	手すりは、最初に設置して最後に撤去する。	R元, H28	
	床開口部の養生	足場の開口部に、蓋や柵などを設置すること。	墜落防止用の手すりの高さは、85cm以上とする。	H25	
	親綱	安全帯のフックを掛ける鋼製ワイヤロープ。	親綱を取り付ける支柱の間隔は、10m以下とする。	H30,H27	
	防護柵	足場に付属し、落下物を受け止める設備。	突出し長さは、水平距離で2m以上とする。	H29,H26	
	壁つなぎ	足場と躯体を結合させ、足場の倒壊を防ぐ部材。	圧縮材と引張材との間隔を1m以内とする。	R4, H27	
	ローリングタワー	水平移動が可能なキャスター付きの移動式足場。	作業開始前に、全脚のストッパーを固定する。	R3, H30, H28,H25	
	乗入れ構台	工事車両の通行路や作業場所となる構台。	支柱の間隔は、3m～6m程度とする。	R3	
型枠	セパレーター	せき板相互の間隔を正しく保持する金具。	丸セパレーターは、型枠に直角に取り付ける。	R4, R元, H29,H25	
	フォームタイ	せき板の間隔を保持する締付けボルト。	打設時には、ボルトの締付け力を点検する。	H30,H27	
	パイプサポート	型枠支保工を支える支柱で、長さの調整ができる。	支柱を継ぐときは、その本数を2本までとする。	R2	
	フラットデッキ	床スラブ等の捨型枠となる鋼製デッキプレート。	受け梁の側型枠は、縦積木で補強する。	R3	

1.2

最新問題解説

令和4年度 問題2 建築施工用語と施工上の留意点の解答例

問題2 次の建築工事に関する用語の一覧表の中から5つ用語を選び、解答用紙の用語の記号欄の記号にマークしたうえで、選んだ用語欄に用語を記入し、その用語の説明と施工上留意すべきことを具体的に記述しなさい。

ただし、a及びj以外の用語については、作業上の安全に関する記述は不可とする。
また、使用資機材に不良品はないものとする。

用語の一覧表

用語の記号	用語
a	足場の壁つなぎ
b	帯筋
c	親杭横矢板壁
d	型枠のセパレーター
e	壁のモザイクタイル張り
f	先送りモルタル
g	セッティングブロック
h	タイトフレーム
i	天井インサート
j	ベンチマーク
k	防水工事の脱気装置
ℓ	マスキングテープ
m	木構造のアンカーボルト
n	溶接のアンダーカット

**ポイント
解説**

建築工事に関する用語の説明と、施工上留意すべきことを解答する上でのポイントは、下表の通りである。(仮設・躯体・仕上げの分野別に示す)

分野	建築工事の用語	用語の説明の解答ポイント	施工上留意すべきことの解答ポイント	
仮設	a	足場の壁つなぎ	足場の倒壊・変形を防止するために、躯体と足場を繋ぐ部材である。	単管足場の壁つなぎの間隔は、垂直5m以下・水平5.5m以下とする。
	c	親杭横矢板壁	H型鋼の間に木板を嵌め込んだ、止水性がない土留め壁である。	地山を削る深さは、矢板の厚さに余掘り厚を加えた程度とする。
	d	型枠のセパレーター	型枠のせき板相互の間隔を正しく保持するための鋼製部品である。	丸セパレーターは、型枠に対して直角に取り付ける。
	j	ベンチマーク	建築物の平面位置や高さの基準となる木杭などの設備である。	破損に備えて複数個設ける。移動や破損を防ぐため、柵などで囲う。
躯体	b	帯筋	鉄筋コンクリート柱の主筋を取り囲むせん断補強用の鉄筋である。	柱梁接合部内の帯筋間隔は、原則として150mm以下とする。
	f	先送りモルタル	コンクリートの圧送前に、輸送管内に圧送するモルタルである。	水セメント比が小さい富調合とするが、型枠内には打ち込まない。
	m	木構造のアンカーボルト	在来軸組構法の土台を基礎に固定するために設ける金具である。	土台の継手付近では、上木をアンカーボルトで締め付ける。
	n	溶接のアンダーカット	溶接した鉄骨に溝掘りが生じる欠陥であり、強度低下の原因となる。	溶接電流が大きくなりすぎないように留意する。
仕上げ	e	壁のモザイクタイル張り	下地の張付けモルタルに、ユニットタイルを叩き込む工法である。	張付けモルタルは、2層に分けて塗る。1層目は、こて圧をかける。
	g	セッティングブロック	ガラスの自重を支え、エッジクリアランスを確保する部材である。	両角部からガラス幅の4分の1だけ内側となる2箇所を設置する。
	h	タイトフレーム	金属製折板屋根で、受梁と折板との固定に使用する部材である。	隅肉溶接のサイズは、タイトフレームの板厚と同じにする。
	i	天井インサート	天井の吊りボルトを固定するために打ち込む雌ねじである。	既存の埋込みインサートを再使用するときは、強度確認を行う。
	k	防水工事の脱気装置	下地の水蒸気を大気中に放出し、防水層の膨れを防ぐ装置である。	平面部では、25m ² ～100m ² につき1個の脱気装置を設ける。
	l	マスキングテープ	シーリング材による仕上げ面の汚れを防止するテープである。	シーリング材のヘラ仕上げの終了後、直ちに取り除く。

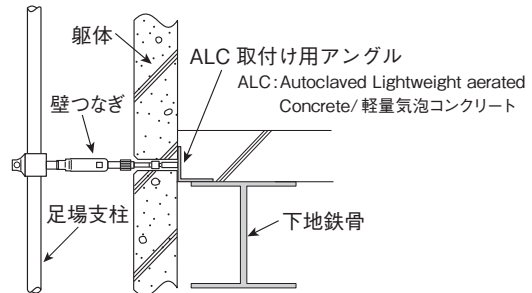
解答例

以下の用語から5つの用語を選んで解答する。

a	用語	足場の壁つなぎ	ポイント：仮設・足場工事（部材）
	用語の説明	風などによる足場の倒壊や変形を防止するため、建築物の躯体に組立後の足場を繋ぎ止める部材である。	
	施工上留意すべきこと	単管足場の壁つなぎの間隔は、垂直方向では5 m以下、水平方向では5.5 m以下とする。	

参考

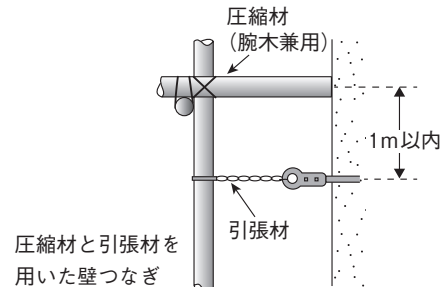
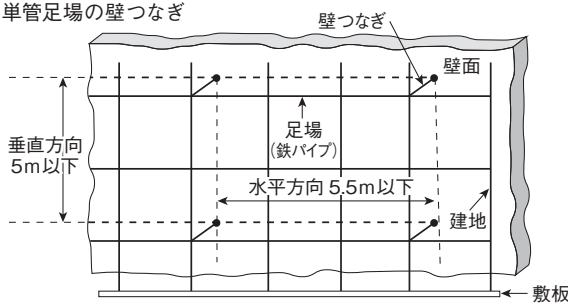
- (1) 足場の壁つなぎは、風などによる足場の倒壊や変形を防止するため、建築物の躯体に組立後の足場を繋ぎ止めることを目的とした部材である。一例として、右図の足場支柱は、壁つなぎを介して、躯体の下地鉄骨に繋ぎ止められている。



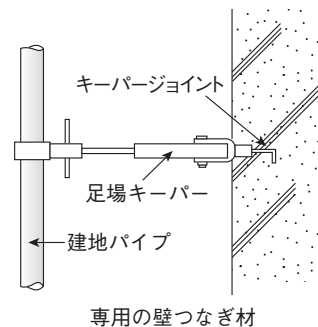
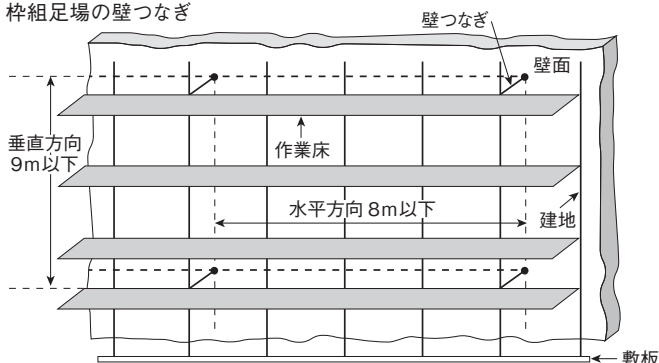
下地鉄骨を利用した壁つなぎの例

- (2) 足場の壁つなぎは、鋼管・丸太などの材料を用いて、堅固なものとする。壁つなぎが引張材と圧縮材とで構成されているときは、引張材と圧縮材との間隔を1m以内とする。
- (3) 単管足場の壁つなぎの間隔は、その高さに関係なく、垂直方向では5m以下、水平方向では5.5m以下とする。単管足場は、鉄パイプを主な材料として造られた足場である。
- (4) 枠組足場(高さが5m未満のものを除く)の壁つなぎの間隔は、垂直方向では9m以下、水平方向では8m以下とする。枠組足場は、門型の鋼材を主な材料として造られた足場である。

単管足場の壁つなぎ



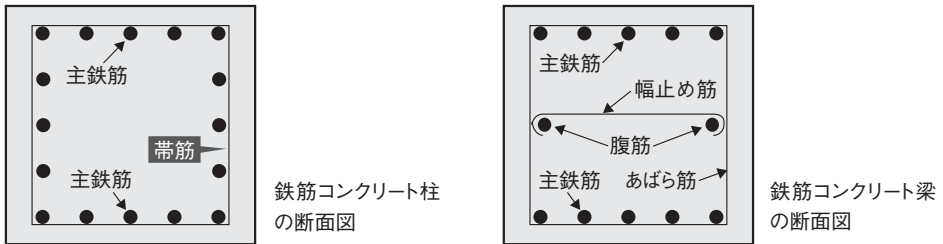
枠組足場の壁つなぎ



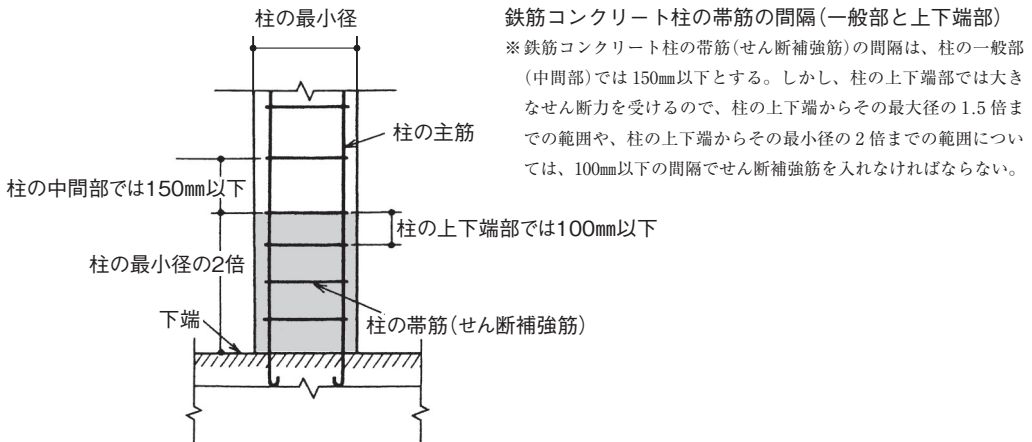
b	用語	帯筋	ポイント：躯体・鉄筋工事（構造）
用語の説明	鉄筋コンクリート構造物の柱において、そのせん断補強と座屈防止のために、主鉄筋を取り囲むようにして配置される鉄筋である。		
施工上留意すべきこと	柱梁接合部内の帯筋間隔は、原則として150mm以下とし、かつ、隣接する柱の帯筋間隔の1.5倍以下とする。		

参考

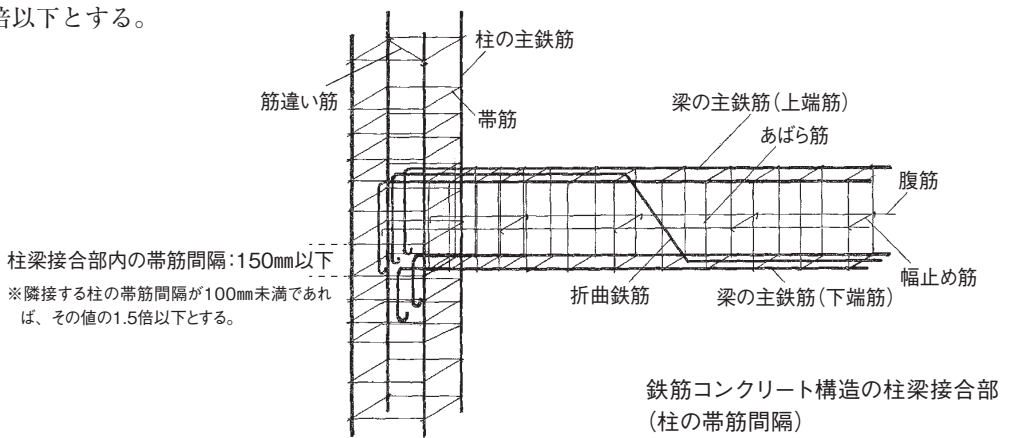
(1) 鉄筋コンクリート構造物では、下図のように、柱にはせん断補強と座屈防止のための帯筋が、梁にはせん断補強のためのあばら筋が配置されている。



(2) 鉄筋コンクリート柱の帯筋(せん断補強筋)は、柱の上下端部では、柱の中央部よりも密に配置しなければならない。



(3) 柱梁接合部内の帯筋間隔は、原則として150mm以下とし、かつ、隣接する柱の帯筋間隔の1.5倍以下とする。



第4章

建築施工

4-1A 建築施工 技術検定試験 重要項目集 (受検種別: 建築)

4-2A 最新問題解説 (受検種別: 建築)

4-1B 建築施工 技術検定試験 重要項目集 (受検種別: 躯体)

4-2B 最新問題解説 (受検種別: 躯体)

4-1C 建築施工 技術検定試験 重要項目集 (受検種別: 仕上げ)

4-2C 最新問題解説 (受検種別: 仕上げ)

※ A (建築)・B (躯体)・C (仕上げ)のうち、受検種別に応じた学習項目を選択してください。

受検種別	受検種別に応じた内容(この分野では次のような内容を問われることになる)
建築	<ul style="list-style-type: none">●主任技術者として、建築材料の強度等を正確に把握し、工事の目的物に所要の強度・外観等を得るために必要な措置を適切に行うことができる应用能力●主任技術者として、設計図書に基づいて、工事現場における施工計画を適切に作成し、施工図を適正に作成することができる应用能力
躯体	<ul style="list-style-type: none">●基礎及び躯体に係る建築材料の強度等を正確に把握し、工事の目的物に所要の強度等を得るために必要な措置を適切に行うことができる高度の应用能力●建築一式工事のうち、基礎及び躯体に係る工事の工程管理・品質管理・安全管理等、工事の施工の管理方法を正確に理解し、設計図書に基づいて、当該工事の工事現場における施工計画を適切に作成し、施工図を適正に作成することができる高度の应用能力
仕上げ	<ul style="list-style-type: none">●仕上げに係る建築材料の強度等を正確に把握し、工事の目的物に所要の強度・外観等を得るために必要な措置を適切に行うことができる高度の应用能力●建築一式工事のうち、仕上げに係る工事の工程管理・品質管理・安全管理等、工事の施工の管理方法を正確に理解し、設計図書に基づいて、当該工事の工事現場における施工計画を適切に作成し、施工図を適正に作成することができる高度の应用能力

※この内容は2級建築施工管理技術検定の受検の手引を基に作成したものです。

4.2C

受検種別：仕上げ

問題5-C 最新問題解説

受検種別：仕上げ

令和4年度

問題5-C

建築施工の解答例

問題5-C

次の1. から4. の各記述において、 に当てはまる最も適切な語句又は数値を、下の該当する枠内から1つ選びなさい。

1. アスファルト防水の密着工法において、平場部のアスファルトルーフィング類の張付けに先立ち、コンクリート打継ぎ部は、幅50mm程度の絶縁用テープを張った上に、幅 mm以上の ルーフィングを増張りする。

アスファルトルーフィング類の張付けは、空隙、気泡、しわ等が生じないように均一に押し均して、下層に密着させる。

①	① 100	② 150	③ 200	④ 300
---	-------	-------	-------	-------

②	① 砂付	② ストレッチ	③ あなあき	④ 合成高分子系
---	------	---------	--------	----------

2. セメントモルタルによる壁タイル張りの工法において、 は、張付けモルタルを下地面とタイル裏面の両方に塗ってタイルを張り付ける工法である。

タイルの張付けは、タイル張りに用いるハンマー等でタイル周辺からモルタルがはみ出すまで入念にたたき押し、 に向かって張り進める。

張付けモルタルの1回の塗り付け面積は、 $2\text{m}^2/\text{人}$ 以内、かつ、60分以内に張り終える面積とし、1回のタイルを張り終わったら、張付けモルタルの硬化を見ながら、はみ出したモルタルを除去する。

③	① 密着張り	② マスク張り	③ 改良圧着張り	④ 改良積上げ張り
---	--------	---------	----------	-----------

④	① 1段おきに上から下	② 1段おきに下から上	③ 1段ごとに上から下	④ 1段ごとに下から上
---	-------------	-------------	-------------	-------------

3. 金属屋根工事において、金属板葺の下葺にアスファルトルーフィングを用いる場合、野地面上に軒先と平行に敷き込み、隣接するアスファルトルーフィングを上下、左右とも重ねながら軒先から棟に向かって張り進める。アスファルトルーフィングの左右の重ねは、 mm 程度を標準とし、継ぎ目が相互に近接しないようにする。

アスファルトルーフィングの留付けは、ハンマー式タッカー等を用い、ステープルで野地板に固定する場合が多く、アスファルトルーフィングの重ね部分は mm 程度、その他の部分は必要に応じて 900 mm 以内の間隔で留め付けるのが一般的である。

⑤	<input type="radio"/> ① 50	<input type="radio"/> ② 100	<input type="radio"/> ③ 150	<input type="radio"/> ④ 200
---	----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------

⑥	<input type="radio"/> ① 150	<input type="radio"/> ② 300	<input type="radio"/> ③ 450	<input type="radio"/> ④ 600
---	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------

4. 塗装工事において、壁面を吹付け塗りとする場合、吹付けはエアスプレーやエアレススプレー等を用いて行う。

エアスプレーによる吹付けは、エアスプレーガンを塗り面から cm 程度離し、対象面に対し に向け、毎秒 30 cm 程度の一定の速度で平行に動かす。

塗料の噴霧は、一般に中央ほど密で周辺が粗になりやすいため、一列ごとに吹付け幅が約 $\frac{1}{3}$ ずつ重なるように吹き付ける。

⑦	<input type="radio"/> ① 20	<input type="radio"/> ② 30	<input type="radio"/> ③ 40	<input type="radio"/> ④ 50
---	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

⑧	<input type="radio"/> ① 直角	<input type="radio"/> ② やや上	<input type="radio"/> ③ やや下	<input type="radio"/> ④ やや横
---	----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------

正解

分野	記述	枠	正解の番号	適当な語句又は数値
防水工事	記述 1.	①	④	300[mm]
		②	②	ストレッチ
タイル工事	記述 2.	③	③	改良圧着張り
		④	③	1段ごとに上から下
屋根工事	記述 3.	⑤	④	200[mm]
		⑥	②	300[mm]
塗装工事	記述 4.	⑦	②	30[cm]
		⑧	①	直角

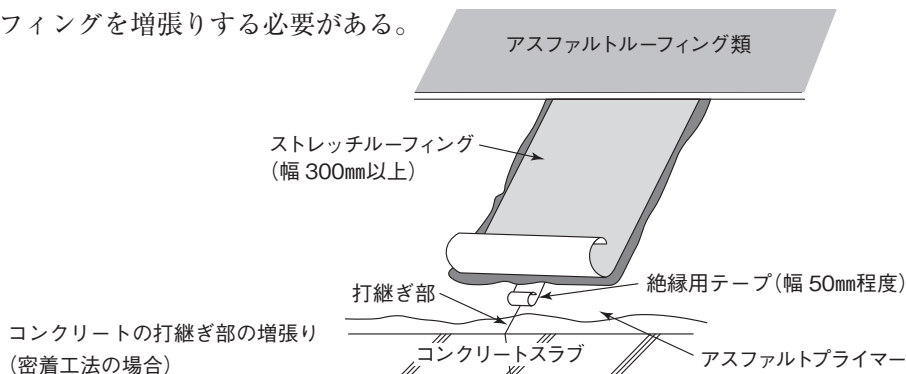
考え方

解き方

記述 1. アスファルト防水 (密着工法における増張り)

①の解答	④	300[mm]
②の解答	②	ストレッチ

- ① 密着工法によるアスファルト防水工事では、平場部のアスファルトルーフィング類を張り付ける前に、コンクリートの打継ぎ部などの防水上不具合のある下地について、幅 50mm 程度の絶縁用テープを張った上に、幅 300mm 以上のストレッチルーフィングを増張りする必要がある。



- ② 密着工法によるアスファルト防水工事では、打継ぎ部が僅かに滑動することがあるので、耐久性のある(引き伸ばしても切れにくい)ストレッチルーフィングを使用する必要がある。また、増張りの幅が不足していると、打継ぎ部が滑動したときに、その上に張られたアスファルトルーフィング類に、ひび割れが生じることがある。

密着工法によるアスファルト防水の詳細 (上記の解説に関するより専門的な内容)

アスファルト防水の密着工法においては、平場部のアスファルトルーフィング類の張付けに先立ち、コンクリートの打継ぎ部は、目地間の移動が比較的小さいため、次のような処置をする。

- ① コンクリート下地面に、プライマーを全面塗布する。
- ② 幅 50mm 程度の絶縁用テープを張る。
- ③ 溶融アスファルト (230℃ 程度の 3 種アスファルト) を打継ぎ部に流す。
- ④ 幅 300mm 以上のストレッチルーフィングを増張りする。

- ③ 絶縁工法によるアスファルト防水工事では、上記①の代わりに、幅 50mm 程度の絶縁用テープを張り付けた後、部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートを張り付けるか、砂付穴あきルーフィングを敷き込んで増張りする必要がある。
- ④ アスファルトルーフィング類の張付けは、空隙・気泡・しわなどが生じないように、均一に押し均して、下層に密着するように行わなければならない。この過程で、空隙・気泡・しわなどが生じた場合は、各層ごとに直ちに補修しなければならない。

以上により、 に当てはまる最も適当な数値は「」である。

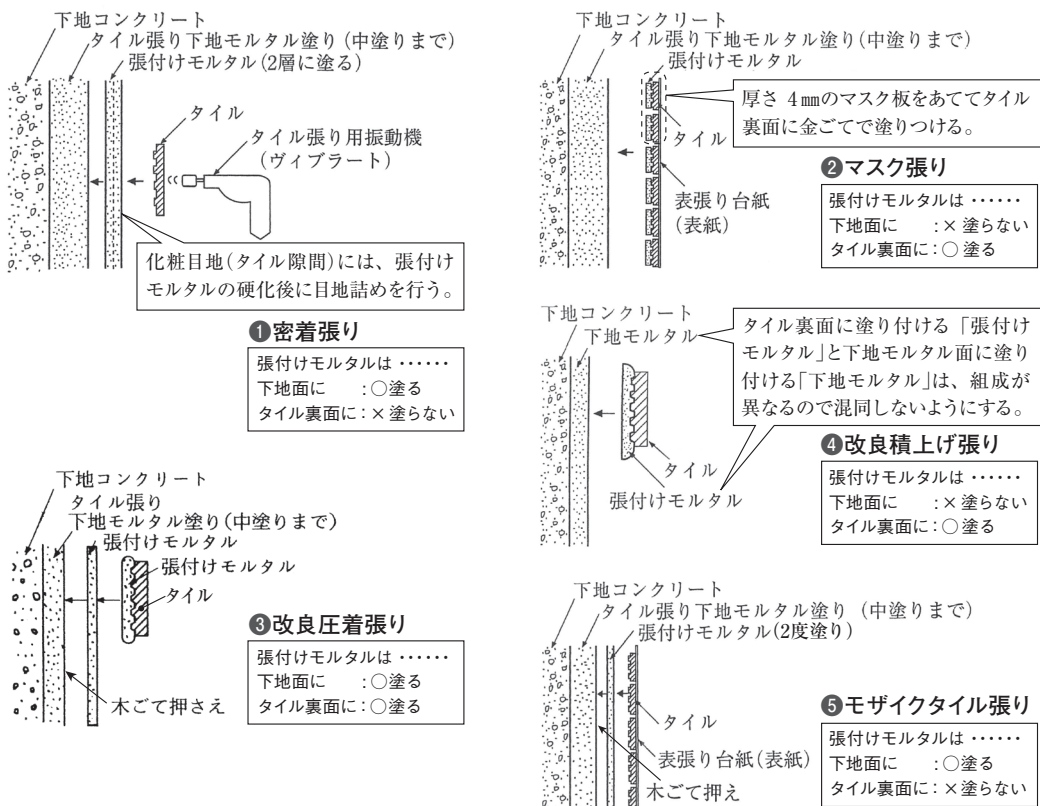
また、 に当てはまる最も適当な語句は「」である。

記述2. 壁タイル張りの工法（張付け順序）

③の解答	③	改良圧着張り
④の解答	③	1段ごとに上から下

- ① セメントモルタルによる壁タイル張りの工法は、次のように分類されている。
- ① 密着張り：下地面に張付けモルタルを塗り付け、振動機を用いてタイルを張り付ける工法である。（タイル裏面には張付けモルタルを塗り付けない）
 - ② マスク張り：タイル裏面に張付けモルタルを塗り付け、表張りユニットを叩き込んでタイルを張り付ける工法である。（下地面には張付けモルタルを塗り付けない）
 - ③ 改良圧着張り：下地面に張付けモルタルを塗り付け、モルタルが軟らかいうちに、タイル裏面にも同じ張付けモルタルを塗ってタイルを張り付ける工法である。
 - ④ 改良積上げ張り：タイル裏面に張付けモルタルを塗り、あらかじめモルタルを塗り付けた下地面に、下部から上部に向かってタイルを張り上げる工法である。
 - ⑤ モザイクタイル張り：下地モルタル面に張付けモルタルを塗り付け、ユニットタイルを張り付けた表張り台紙を叩き込んでタイルを張り付ける工法である。

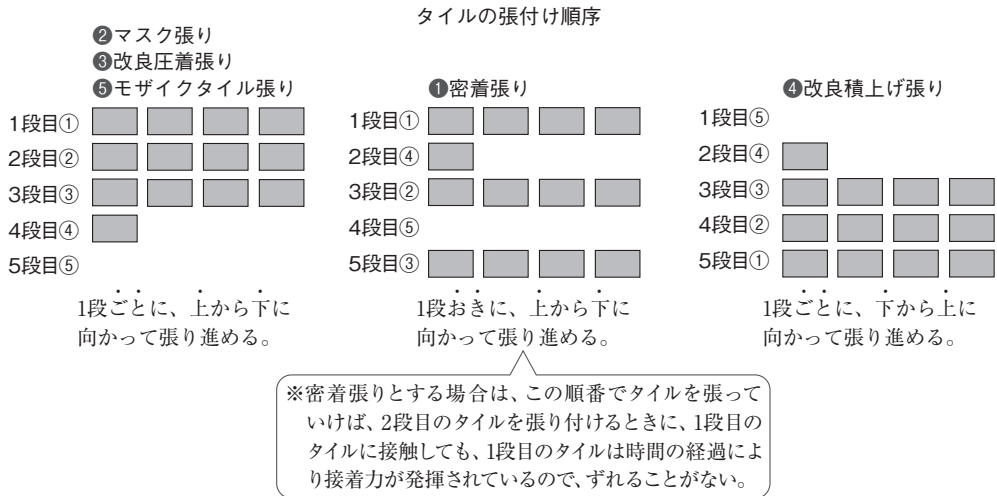
セメントモルタルによる壁タイル張りの工法 張付けモルタルを塗り付ける箇所



- ② したがって、セメントモルタルによる壁タイル張りの工法において、張付けモルタルを下地面とタイル裏面の両方に塗ってタイルを張り付ける工法は、改良圧着張りだけである。（他の張付け方では下地面とタイル裏面のどちらかにしか塗らない）

③セメントモルタルによる壁タイル張りの工法におけるタイルの張付け順序は、次のように定められている。

- ①密着張り : 1段おきに、上から下に向かって張り進める。
- ②マスク張り : 1段ごとに、上から下に向かって張り進める。
- ③改良圧着張り : 1段ごとに、上から下に向かって張り進める。
- ④改良積上げ張り : 1段ごとに、下から上に向かって張り進める。
- ⑤モザイクタイル張り : 1段ごとに、上から下に向かって張り進める。



④改良圧着張りによる壁タイル張りは、次のような事項に留意して行う必要がある。

- ①張付けモルタルは、2層に分けて塗り付けるものとし、1層目はこて圧をかけて塗り付ける。
- ②張付けモルタルの1回の塗り付け面積の限度は、張付けモルタルに触れると手に付く状態のままタイル張りが完了できるよう、タイル工1人につき2m²以内、かつ、60分以内に張り終えることができる面積とする。また、張付けモルタルを練り混ぜる量は、1回の塗り付け量および張付け量とする。
- ③張付け順序については、目地割りに基づいて水糸を引き通し、窓・出入口回り・隅・角などの役物を先に行うようにする。
- ④タイルの張付けは、タイル裏面の全面に、張付けモルタルを平らに塗り付けて張り付けた後、適切な方法で(タイル張りに用いるハンマーなどを用いて)タイル周辺からモルタルがはみ出すまで叩き締め、通りよく平らに仕上げる。
- ⑤1回のモルタル塗面にタイルを張り終わったら、張付けモルタルの硬化の程度を見ながら、張付けが終わったタイル周辺にはみ出しているモルタルを除去する。

以上により、③に当てはまる最も適切な語句は「③改良圧着張り」である。

また、④に当てはまる最も適切な語句は「③1段ごとに上から下」である。

記述 3. 金属板葺屋根の下葺(重ね幅と留付け間隔)

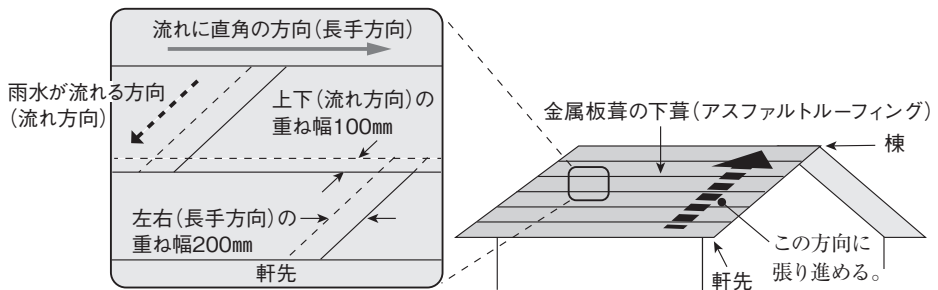
⑤の解答	④	200[mm]
⑥の解答	②	300[mm]

① 金属屋根工事において、金属板葺の下葺に使用するアスファルトルーフィングの施工方法については、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)において、次のように定められている。

- ① 野地面上に、軒先と平行に敷き込み、軒先から上(棟の方向)へ向かって張る。
- ② 上下(流れ方向)は100mm以上、左右(長手方向)は200mm以上重ね合わせる。
- ③ 横方向の継目位置は揃えない。(弱点となる継目が相互に近接しないようにする)

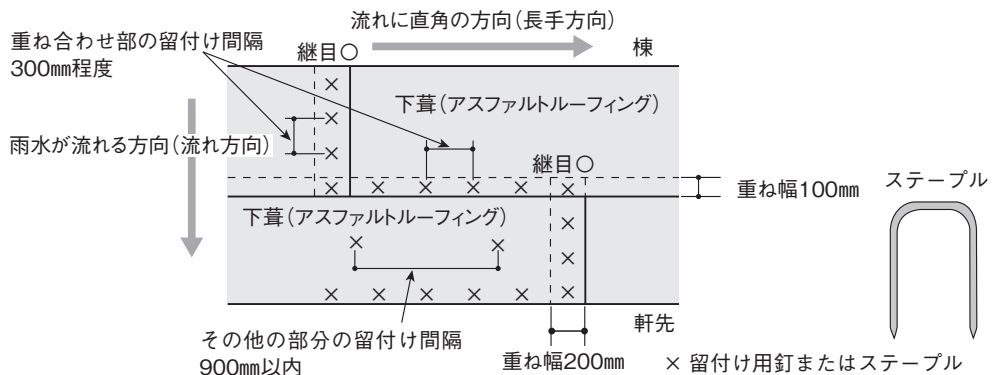
※この重ね幅については、アスファルト防水におけるアスファルトルーフィングの重ね幅(平場部では縦横共に100mm以上・立上り部では150mm以上)と混同しないように注意が必要である。

金属板葺の下葺に使用するアスファルトルーフィングの重ね幅



② 金属板葺の下葺に使用するアスファルトルーフィングは、ハンマー式タッカー(専用の釘を打ち込むための大型のホチキスのような工具)などを用いて、留付け用釘またはステープル(ホチキスの芯を大きくしたようなU字型の釘)で野地板に固定することが一般的である。この留付け用釘またはステープルは、アスファルトルーフィングの重ね合わせ部では300mm程度の間隔で留め付けることが一般的である。また、それ以外の部分では要所に(必要に応じて900mm以内の間隔で)留め付けることが一般的である。

金属板葺の下葺に使用するアスファルトルーフィングの留付け間隔



③ 上記②の例外として、改質アスファルトルーフィング下葺材(粘着層付タイプ)を下葺として使用する場合は、留付け用釘やステーブルを用いずに、裏面の剥離紙を剥がしながら下地に張り付けることができる。

以上により、**⑤**に当てはまる最も適当な数値は「**④ 200mm**」である。

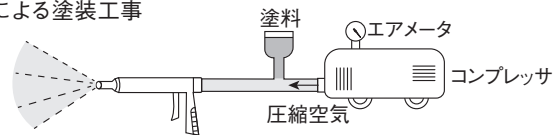
また、**⑥**に当てはまる最も適当な数値は「**② 300mm**」である。

記述 4. エアスプレーによる壁面の吹付け塗り

⑦の解答	②	30[cm]
⑧の解答	①	直角

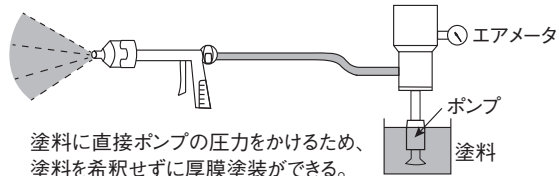
① 塗装工事において、壁面を吹付け塗りとする場合は、エアスプレーまたはエアレススプレーによる吹付けが行われる。

エアスプレーによる塗装工事



圧縮空気で塗料を希釈するため、塗料は低粘度・低濃度になる。

エアレススプレーによる塗装工事



塗料に直接ポンプの圧力がかかるため、塗料を希釈せずに厚膜塗装ができる。

② エアスプレーによる吹付けを行うときは、エアスプレーガンを塗り面から**30cm**程度離しておく(ノズルから吹付け面までの距離を30cm程度にする)ことが望ましい。

① この距離が短すぎる(20cm以下になると、塗料が一箇所に集中して吹き付けられる(塗膜が厚くなりすぎる)ため、塗装面に凹凸などが生じやすくなる。

② この距離が長すぎる(40cm以上になると、塗料が空気中に飛散してしまう(塗膜が薄くなりすぎる)ため、十分な塗装ができなくなる。

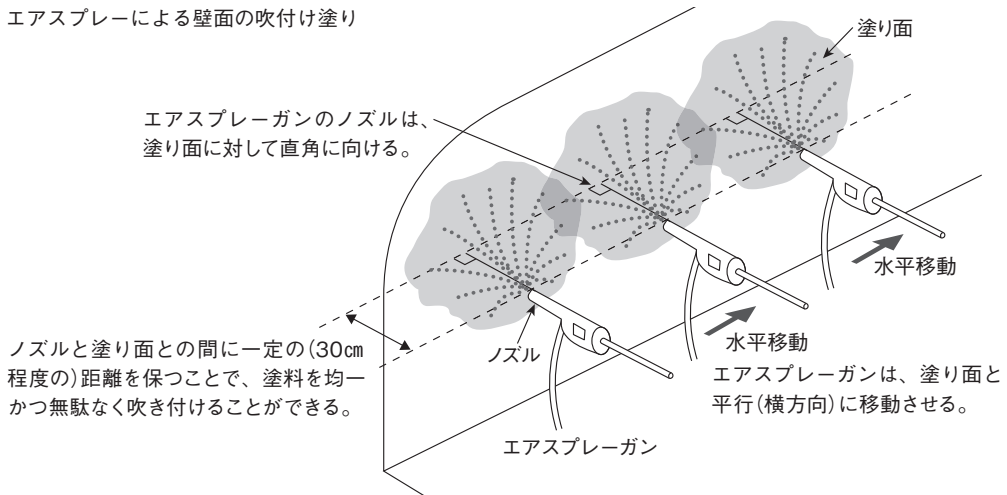
③ エアスプレーによる吹付けを行うときは、エアスプレーガンを対象面に対して**直角**に向けて、一定の(一般的には毎秒30cm程度の)速度で平行に動かすことが望ましい。

① エアスプレーガンを対象面に対して斜め(やや上・やや下・やや横など)に向けると、塗り面に対して斜めに塗料が吹かれるので、塗膜が不均一になる。

② エアスプレーガンを動かす速度が適正でない(速すぎる・遅すぎる・動かす速度を途中で変える)と、速度が遅いほど塗膜が厚くなるので、塗膜が不均一になる。

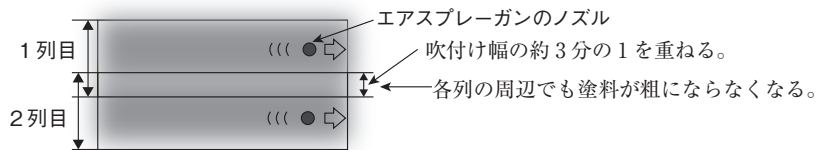
③ エアスプレーガンを平行に動かさない(動かす方向を途中で変える)と、動かす方向を変えた箇所において運行が乱れるので、塗膜が不均一になる。

エアスプレーによる壁面の吹付け塗り

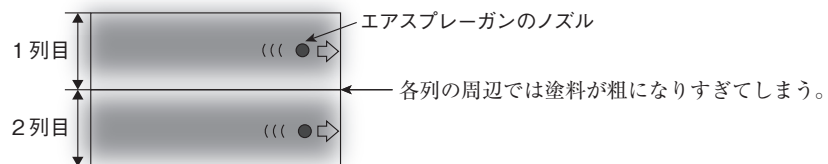


- ④ エアスプレーによる塗料の噴霧では、中央(ノズルに近い部分)では塗料が密になりやすく、周辺(ノズルから離れた部分)では塗料が粗になりやすい。このままでは、塗膜が不均一になってしまうため、一列ごとに吹付け幅が約3分の1ずつ重なるように吹き付けることが望ましい。

正 一列ごとに吹付け幅が約3分の1ずつ重なるように吹き付ける。



誤 一列ごとに吹付け幅が重ならないように吹き付ける。



エアスプレーとエアレススプレーによる施工の詳細(上記の解説に関するより専門的な内容)

- ① 塗装工法については、刷毛塗り・ローラーブラシ塗り・吹付け塗りがある。吹付け塗りには、エアスプレー方式とエアレススプレー方式がある。ここでは、エアスプレー方式とエアレススプレー方式の施工について考える。
- ② エアスプレー方式は、塗料を圧縮空気によって霧化させながら、その空気圧でスプレーガンにより塗装する方式である。この方式は、粘度の高い種類の塗料には用いられない。塗膜は薄く、塗料の飛散が多いという欠点がある。エアスプレー方式の施工の留意点は次のようである。
- ① 作業開始前に、周辺部を十分に養生する。
 - ② 塗料の粘度が、予定の粘度に調整されていることを確認する。
 - ③ 粘度に適合する空気圧に設定されていることを確認する。
 - ④ 被塗物とスプレーガンとの距離を30cm程度とし、被塗物面に対して直角にし、パターンの重ね幅は3分の1となるよう吹き付ける。
 - ⑤ 塗料のだれ・すけ・むらの発生のないように吹き付ける。
- ③ エアレススプレー方式は、塗料自体に20MPa程度の圧力をポンプで加え、スプレーガンのノズルチップから霧化させて吹き付ける方法である。この方式は、高粘度・厚膜仕上げができ、飛散ロスも少なく、効率的である。エアレススプレー方式の施工の留意点は次のようである。
- ① 塗料に適合したノズルチップを選定する。
 - ② 被塗物とスプレーガンとの距離を30cm程度とし、被塗物面に対して直角にし、パターンの重ね幅は3分の1となるよう吹き付ける。
 - ③ 仕上り塗膜の膜厚が均一で、だれ・すけ・むらの発生のないように吹き付ける。

以上により、に当てはまる最も適当な数値は「」である。

また、に当てはまる最も適当な語句は「」である。

令和5年度 2級建築施工管理技術検定試験 第二次検定 虎の巻(精選模試)第一巻

実施要項

- 虎の巻(精選模試)第一巻には、令和5年度の第二次検定に向けて、極めて重要であると思われる問題が集約されています。
- 試験時間は、60分間を目安としてください。
- **問題1**は、前述の施工経験記述編で取り上げたので、ここでは省略しています。
- **問題2**～**問題4**については、すべての問題を解答してください。
- **問題5**については、受検種別: 建築の受検者は**問題5-A**を、受検種別: 躯体の受検者は**問題5-B**を、受検種別: 仕上げの受検者は**問題5-C**を解答してください。
- 解答は、解答欄の範囲内に、はみ出さないように記述してください。
- 解答は、黒の鉛筆かシャープペンで記入してください。
- 採点は、解答・解答例を参考にして、自己評価してください。
- 特に**問題2**では、多様な解答方法があるので、テキスト本編の解答例も参考にすると、自己評価しやすくなります。

自己評価・採点表(60点満点)

問題	問題2	問題3	問題4	問題5
分野	建築工事用語	バーチャート作成	建築法規	建築施工
配点	20	12	12	16
得点				

合計得点	点	36点以上で合格
------	---	----------

配点は、GET研究所の推定によるものです。

虎の巻(精選模試) 第一巻

【問題 2】 次の建築工事に関する用語の一覧表の中から 5 つ用語を選び、用語の記号欄の記号にマークしたうえで、選んだ用語欄に用語を記入し、その用語の説明と施工上留意すべきことを具体的に記述しなさい。

ただし、a・b・c・d 以外の用語については、作業上の安全に関する記述は不可とする。また、使用資機材に不良品はないものとする。

用語の記号	用語
a	防護柵(養生朝顔)
b	型枠はく離剤
c	土工事の布掘り
d	親網
e	コンクリートの打継ぎ
f	鉄骨柱のベースモルタル
g	木構造の土台
h	ルーフドレン
i	通気緩衝シート
j	マスク張り工法
k	軽量鉄骨壁下地の振れ止め
l	金属製建具のかぶせ工法
m	目止め
n	せっこうボードの直張り工法

「虎の巻」解説講習 - 3

問題 2 解答欄

各 4 点 × 5 = 20 点

用語の記号	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

選んだ用語	
用語の説明 (2 点)	-----
施工上留意すべきこと (2 点)	-----

選んだ用語	
用語の説明 (2 点)	-----
施工上留意すべきこと (2 点)	-----

選んだ用語	
用語の説明 (2 点)	-----
施工上留意すべきこと (2 点)	-----

選んだ用語	
用語の説明 (2 点)	-----
施工上留意すべきこと (2 点)	-----

選んだ用語	
用語の説明 (2 点)	-----
施工上留意すべきこと (2 点)	-----

虎の巻(精選模試)

第一巻

解答・解答例

問題 2

解答例

※5つを選んで解答する。

a	選んだ用語	防護棚(養生朝顔)	仮設・外部足場工事(設備)
	用語の説明	外部足場からの落下物を受け止めるために、足場から突き出して取り付けられる設備である。	
	施工上留意すべきこと	外部足場の外側からのはね出し長さを水平距離で2m以上とし、水平面となす角度を20度以上とする。	

b	選んだ用語	型枠はく離剤	仮設・型枠支保工工事(材料)
	用語の説明	型枠を取り外す際、型枠とコンクリートとの剥離性を高めるため、型枠内面に塗布する薬品。	
	施工上留意すべきこと	型枠剥離剤は、型枠取外し後のコンクリート表面に残留しないよう、薄く塗布する。	

c	選んだ用語	土工事の布掘り	躯体・地業工事(作業)
	用語の説明	木造建築物の新築などにおいて、連続的な基礎掘削をするときに、带状に地盤を掘削する作業。	
	施工上留意すべきこと	布掘りの幅は、掘削後の砂利地業や、捨てコンクリート打設後の基礎型枠の組立てを考慮し、余裕幅を確保しておく。	

d	選んだ用語	親綱	仮設・外部足場工事(材料)
	用語の説明	高所作業場で作業員が水平移動するとき、要求性能墜落制止用器具のフックを掛けるために、水平に張った鋼製のワイヤロープ。	
	施工上留意すべきこと	親綱の支柱スパンは、10m以下とする。また、ひとつの支柱スパンに、複数の労働者が同時に安全帯のフックを掛けないようにする。	

e	選んだ用語	コンクリートの打継ぎ	躯体・コンクリート工事(作業)
	用語の説明	先行して施工したコンクリートに、時間が経ってからコンクリートを継ぎ足すこと。	
	施工上留意すべきこと	打継ぎ箇所は、せん断応力の小さい梁の中央部とする。先行して施工したコンクリートと後続コンクリートが一体となるように締め固める。	

2級建築施工管理技術検定試験 第二次検定

有料 施工経験記述添削講座 応募規程

(1) 受付期間

令和5年7月14日から10月15日(必着)までとします。

(2) 返信期間

令和5年7月28日から10月29日までの間に順次返信します。

(3) 応募方法

- ①本書の607ページ・609ページ・611ページにある記入用紙(A4サイズに拡大コピーしたものでも可)のうち、添削を受けたいテーマの記入用紙を切り取ってください。
- ②切り取った記入用紙に、濃い鉛筆(2B以上を推奨)またはボールペンで、あなたの施工経験記述を手書きで明確に記述してください。
- ③お近くの銀行または郵便局(お客様本人名義の口座)から、下記の振込先(弊社の口座)に、添削料金をお振込みください。振込み手数料は受講者のご負担になります。

添削料金	: 1テーマにつき(1通につき)3000円(税込)
金融機関名	: 三井住友銀行
支店名	: 池袋支店
口座種目	: 普通口座
店番号	: 225
口座番号	: 3242646
振込先名義人	: 株式会社建設総合資格研究社(カブシキガイシャケンセツソウゴウシカクケンキュウシャ)

- ④添削料金振込時の領収書のコピーを、613ページの申込用紙に貼り付けてください。
- ⑤下記の内容物を23.5cm×12cm以内の定形封筒に入れてください。記入用紙と申込用紙は、コピーしたものでも構いません。

チェック

- 施工経験記述 記入用紙(A票)
- 施工経験記述 申込用紙(B票)
- 返信用の封筒(1枚)

※返信用の封筒には、返信先の郵便番号・住所・氏名を明記し、切手を貼り付けてください。

- ⑥上記の内容物を入れた封筒に切手を貼り、下記の送付先までお送りください。

〒171-0021

東京都豊島区西池袋3-1-7

藤和シティホームズ池袋駅前1402

株式会社 建設総合資格研究社

(2級建築担当)

※この部分を切り取り、封筒宛名面にご利用いただけます。

※封筒には差出人の住所・氏名を明記してください。

施工経験記述 記入例・添削例

氏名 **建築 太郎**

問題文は 604 ページに掲載されています。

※必ず手元に原文またはコピーを保管してください。

令和5年度 2級建築施工管理技術検定試験第二次検定(品質管理)

施工経験記述のテーマ 品質管理 受検種別 (建築) 躯体・仕上げ

〔工事概要〕

イ	工事名	池袋町田防新築工事
ロ	工事場所	東京都豊島区東池袋3丁目2-11
ハ	工事の内容	個人住宅 木造2階建 延べ面積 280m ² 床タイル工事 80m ² , 防水工事 360m ² 外壁タイル工事 420m ² 塗装工事 000m²
ニ	工期等	平成27年4月 ~ 平成28年2月
ホ	あなたの立場	現場主人 任
ヘ	あなたの業務内容	内装工事管理

②に対応させる。

問い1.

○	①	工種名	防水工事	留意したこと(～の品質確保)	屋根防水性能の確保
○	○	その理由	屋根葺材の隙間から雨水が侵入しないように下葺を行なう必要があるため。		
○	○	実際に 行ったこと	施工図に基づき、アスファルトシート(940)を軒先から始め、 100mm の隙間を200mm以上重ね、ステンシル釘で300mmで仮止めした。		
○	②	工種名	塗装工事	留意したこと(～の品質確保)	造作材の素調整の品質の確保
○	○	その理由	外部造作部材合成樹脂調整ペイント塗りの品質は下地の素調整に影響されるから。		
○	○	実際に 行ったこと	造作材の含水比が18%以下であることを確認して、 セラフニス の頭を沈め、汚れを除去して素調整とした。		
○	③	工種名	タイル工事	留意したこと(～の品質確保)	耐剥離性能の確保
○	○	その理由	密着張り工法における張付けモルタルの施工品質は、タイルの耐剥離性能の確保に重大に影響があるから。		
○	○	実際に 行ったこと	張付けモルタルは2層塗りとし、1層目はニテ圧をかけて塗り付け、1回の塗付面積は2m ² 以下とし、 20 分以内で張付けた。		

問い2.

○	①	品質管理の方法	コンクリートの受入検査として定められたスランゴ、空気量、塩化物含有量試験を行なう管理値に適合したものを打込む。	
○	○	そう考える理由	コンクリートの打込みに基づく受入検査は設計図に定められた仕様書で品質確保ができるから。	
○	②	品質管理の方法	コンクリート造の屋上防水において、打継目及びひび割れの大きい部分に50mmの緑縁用テープと300mmのアスファルトシートを張掛けた。	
○	○	そう考える理由	コンクリートの伸縮箇所を絶縁テープとストレッカーシートを張掛けることで局所的な劣化が防止でき漏水を防止できるから。	

設計図書
行えば
絶

ストレッカー
掛

評価	工事概要	合(○) 否(×)	問い1.	合(○) 否(×)	問い2.	合(○) 否(×)	総合評価	合(○) 準(△) 否(×)
コメント	[工事概要]の立場の誤字は不合格です。技術的な数値を正しく記述して下さい。 []:誤りではないが書き換えが望ましい箇所 □:修正する必要がある箇所							

[著 者] 森野安信

著者略歴

1963年 京都大学卒業

1965年 東京都入職

1988年 1級建築施工管理技士資格取得

1991年 建設省中央建設業審議会専門委員

1994年 文部省社会教育審議会委員

1998年 東京都退職

1999年 GET研究所所長

[著 者] 榎本弘之

スーパーテキストシリーズ

令和5年度 分野別 問題解説集

2級建築施工管理技術検定試験 第二次検定

2023年7月14日 発行

発行者・編者 森野安信
GET 研究所
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-1-7
藤和シティホームズ池袋駅前 1402
<https://get-ken.jp/>
株式会社 建設総合資格研究社

編集 榎本弘之
デザイン 大久保泰次郎
森野めぐみ

発売所 丸善出版株式会社
〒101-0051 東京都千代田区神田
神保町2丁目17番
TEL：03-3512-3256
FAX：03-3512-3270
<https://www.maruzen-publishing.co.jp/>

印刷・製本 中央精版印刷株式会社

ISBN 978-4-910965-03-1 C 3052

●内容に関するご質問は、弊社ホームページのお問い合わせ(<https://get-ken.jp/contact/>)から受け付けております。(質問は本書の紹介内容に限ります)